

2024年12月11日

地域プロモーションアワード2024 決定！

大賞は 鹿児島県南大隅町【パンフレット】 鹿児島県喜界町【動画】

一般財団法人地域活性化センターでは、地域の魅力を国内外に発信する広報PR活動の一助とするために、地域プロモーション事業の推進を行っています。その一環として、優れたパンフレットや動画を表彰する「地域プロモーションアワード」を実施しています。

この度、「地域プロモーションアワード2024」の各賞が決定しましたので、下記のとおり発表いたします。

なお、大賞受賞団体の表彰式を2025年1月20日（月）にWASEDA NEO（COREDO 日本橋5階）にて開催いたします。

記

1. 受賞作品

ふるさとパンフレット大賞（第12回） 応募数：74点 受賞作品数：7点

- | | | | |
|-------------|--|------|----------------|
| ●大賞 | 鹿児島県南大隅町 | ●優秀賞 | 長崎県小値賀町 |
| | 「まんなかと、すみっこと。」 | | 「小値賀だから、できること」 |
| ●南伸坊賞 | 長崎県松浦市 | | |
| | 「meets!まつら (vol.19)」 | | |
| ●楓千里賞 | 新潟県 | | |
| | 「NIIGATA Culture Tourism ニイガタ カルチャー ツーリズム -上越エリア-」 | | |
| ●バックン賞 | 山形県鶴岡市 | | |
| | 「つるおか食の原風景」 | | |
| ●マックン賞 | 長野県飯田市 | | |
| | 「飯田焼肉の取説」 | | |
| ●地域活性化センター賞 | 茨城県行方市 | | |
| | 「SHIRAUO BOOK」 | | |

ふるさと動画大賞（第6回） 応募数：104点 受賞作品数：8点

- | | | | |
|-------------|---|------|-------------------|
| ●大賞 | 鹿児島県喜界町 | ●優秀賞 | 埼玉県熊谷市 |
| | 「優しさも、おすそ分け」 | | 「埼玉県熊谷市グルメCMシリーズ」 |
| ●箭内道彦賞 | 埼玉県越生町 | | |
| | 「越生七福神めぐり～小さな町のクセすご神セブン～」 | | |
| ●秋吉久美子賞 | 滋賀県東近江市 | | |
| | 「源 ROOTS OF JAPAN 永源寺エリア 日本の原風景を訪ねて」 | | |
| ●木川剛志賞 | 栃木県茂木町 | | |
| | 「いつかの日常が蘇る場所 茂木町」 | | |
| ●戸高良彦賞 | 神奈川県厚木市 | | |
| | 「おいしいね 厚木の給食」 | | |
| ●谷中修吾賞 | 新潟県 | | |
| | 「NIIGATA Culture Tourism ニイガタ カルチャー ツーリズム Episode2 -魚沼エリア-」 | | |
| ●地域活性化センター賞 | 福井県 | | |
| | 「青々吉日プロモーション動画」 | | |

お問い合わせ先
一般財団法人 地域活性化センター
情報・広報プロモーション課
担当：畠田 藤本 飯山
TEL：03-5202-6137 E-mail：kouhou@jcrd.jp
URL：<https://www.jcrd.jp/publications/pamphlet/2024/>

地域プロモーションアワード2024



第12回 ふるさとパンフレット大賞



審査結果

開催趣旨

地域活性化センターでは、パンフレットによる地域情報発信を支援するために「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさとパンフレット大賞」を開催し、全国各地の趣向を凝らしたパンフレットを募集、表彰している。

応募作品数

応募作品：74作品 受賞作品：7作品

審査委員



審査委員長

イラストレーター
南 伸坊氏



審査委員

國學院大學
観光まちづくり学部
教授 楓 千里氏



審査委員

お笑いコンビ
パッキンマックン
パッキン氏



審査委員

お笑いコンビ
パッキンマックン
マックン氏



審査委員

一般財団法人
地域活性化センター
常務理事
川住 昌光

受賞作品



大賞 / 鹿児島県南大隅町

まんなかと、すみっこと。



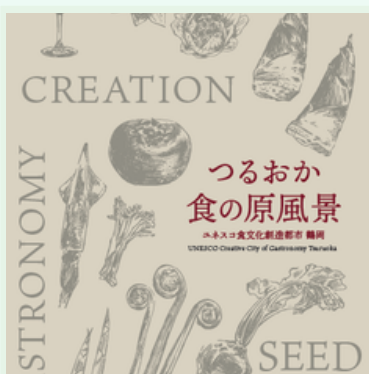
優秀賞 / 長崎県小値賀町
小値賀だから、できること



南仲坊賞 / 長崎県松浦市
meets!まつら (vol.19)



楓千里賞 / 新潟県
NIIGATA Culture Tourism ニイガタ
カルチャー ツーリズム -上越エリア-



パッケン賞 / 山形県鶴岡市
つるおか 食の原風景



マッケン賞 / 長野県飯田市
飯田焼肉の取説



地域活性化センター賞
/ 茨城県行方市
SHIRAUO BOOK

※ 受賞作品の詳細は右のQRコードをご覧ください。

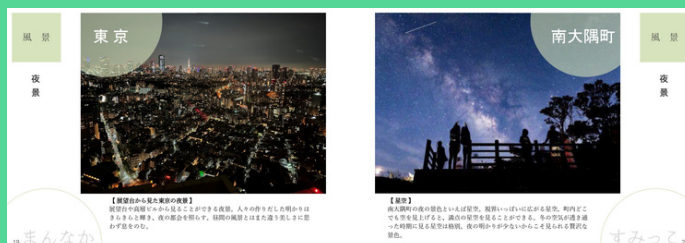




大賞

鹿児島県南大隅町

まんなかと、すみっこと。



審査委員コメント

- ・都会とのコントラストを端的に写真2枚ずつで示しつつ、じわじわ「南大隅町」の魅力を伝えていくという見事なアイデアでした。
 - ・「まちの姿」「風景」「暮らし」「ひと」のテーマで、見開きの左ページに東京、右ページに南大隅町のシーンが展開し、なるほど、なるほどと見比べ、納得しながら、ページが進みます。後半の「#まんなかと、すみっこと。」では1枚の写真で、東京と南大隅町の全く違う呼び方や捉え方が並び、クスッと笑わせてくれます。制作のプロデューサーは町民保健課の方、町役場の皆さん総出で撮影した写真で構成されている、まさに手づくりの作品には、皆さんの地元への誇りと愛が凝縮されていて、東京に住むものとしては、小さな嫉妬心が浮かびました。
 - ・東京のそれと比べることで、南大隅町のほっこりとした居心地の良さをアピールしている。
- 読み進めると、「そうだよなあ。これでいいんだよなあ」、「これがいいんだよなあ」と納得していく自分がある。



受賞団体コメント

南大隅町は鹿児島県本土最南端に位置し、人口6,000人程度の小さな田舎町です。

今回の作品「まんなかと、すみっこと。」は日本の真ん中“東京”と、すみっこにある“南大隅町”の「当たり前」を比較しながら、町の魅力を知っていただきたいという思いを持って作成しました。自分たちにとっては当たり前のことが、外から見たら当たり前ではなく、そこにこそ町の魅力が詰まっていると感じています。不便さや地理的に不利な部分などの「当たり前」、その欠点も含めて、町の等身大の姿を見ていただきたいです。

写真撮影やそれぞれの文章、デザインに至るまですべて自分たちの手で作り上げました。町の「良さ」を知っている自分たちが、伝えることの表現にこだわり、一つ一つ丁寧に想いを紡ぎました。それぞれのふるさととも重なる部分もあるかと思うので、ご自身のふるさとを思い出すきっかけにもなれば嬉しいです。

制作にあたり、たくさんの方の暖かいご協力をいただきましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

この度はこのような大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございました。

優秀賞

長崎県小値賀町

小値賀だから、できること



審査委員コメント

・全てにわたってよくまとまった作品でした。まとまりの良さは、他の候補作全般についても言えることですが、パンフレットには、まず心をつかむアイデアや魅力が、その工夫が必要なことは、何度でも私が強調したいところです。ご自分のこととして考えてくだされば、わかるでしょう。タダでもらえるパンフレットを私たちは「見なくてツツ」な人です。ふり向かせるには、工夫と魅力が必要です。写真、イラストレーション、レイアウト、そして文章ですが、文字数には加減が大切です。

・第1回「ふるさとパンフレット大賞」優秀賞の小値賀町の作品は、当時からデザインセンスの良さが光っていました。12回目の今回は、さらにセンスがブラッシュアップされ、ほど良いバランスの写真とテキストに、イラストや書き文字が、温かみを醸し出しています。イラスト入りの地図も情報が整理されて見やすく、島のイメージが掴みやすい仕上がりです。上手く誌面に馴染ませているQRコードの入れ方は、他の地域のお手本になると思います。第1回目の表紙はインパクトがあり、記憶に残っていますが、今回の表紙も、波の音や家族のおしゃべりが聞こえてきて、大事にしたい1冊となっています。

・島に着いた瞬間から、どんなことができるのか時間を追って紹介してもらえる絆な構成。これなら自分でもできそうだと思う等身大の島の楽しみ方の数々が展開され、「ちょっと行ってみたいもいいかな。」「何なら住んでみたいもいいかな。」と読み手を浮足立たせる。



受賞団体コメント

この度は「優秀賞」という大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。長崎県の五島列島の北部にある小値賀町は、人口約2,100人ほどの小さな島です。このパンフレットを制作するにあたり「たくさんの方に手に取っていただき、何度も読み直したくなったり、大事に保管してもらえるようなパンフレットを作りたい」という想いがありました。タイトルに「小値賀だから、できること〜おぢかの島々を旅するための手引き〜」と題し小値賀を旅する際にできることを分かりやすく紹介しています。また、近年増加しているインバウンドの観光客の方にも対応できるよう多言語QRコードを読み取ることで説明文が28か国語に翻訳できるように工夫しています。小値賀町のきれいな景色や町民の方の温かさ、島のゆったりとした空気感が伝わるように写真の選定にもこだわっています。制作に関わってくださった方々に感謝を申し上げるとともに、多くの方々がこの島ならではのパンフレットを手にとり、小値賀の魅力を知っていただければ幸いです。



南 伸 坊 賞

長 崎 県 松 浦 市

meets! まつら
(vol.19)



審査委員長コメント

3回目の受賞となる、長崎県松浦市を、私があえて選んだのは、サービス精神です。パンフレットを「おもしろく」読んでもらおう、という作り手の情熱です。それは思わず手に取る→読んでみる→おもしろい、という好循環につながります。「そんなに元寇にくわしくなってどうする?」と思いません。おもしろいから(笑)アジフライはうまいしネ。



受賞団体コメント

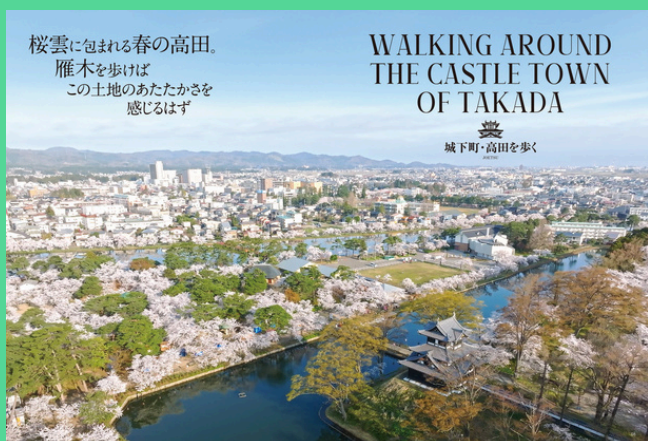
この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。
今回の「meets! まつら」は、文永の役から750年の時間の流れと当時の「想い」を現在の私たちの目に可視化する取り組みを中心に上げています。
冊子全体のテーマは「元寇ロック」です。これは命を懸けて戦った鎌倉武士の活躍がなかったら日本の歴史が変わっていたかもしれない、とくに松浦党をはじめとした北部九州の鎌倉武士たちの熱い想いを「ロック」と表現し、鎌倉武士の「揺るがない強い意志」「苦難なことでも前に進もうとする気持ち」を表しました。
また、制作に関わってくださった多くの方々にも感謝申し上げます。今回の受賞を通じて、松浦市、元寇の歴史がより多くの人へ伝わるきっかけとなることを期待しています。



楓千里賞

新潟県

NIIGATA Culture Tourism
ニイガタ カルチャー ツーリズム
- 上越エリア -



審査委員コメント

全97ページに上越の、風土、文化、歴史、そして地域で活躍されている方々が、しっかりと紹介されており、旅行雑誌と見間違える出来映えに、感動しました。

観光情報は、日々新しい情報に置き換えられる「フロー情報」が重宝され、地域ではSNSを中心に取組むのがトレンドでもあります。「NIIGATA Culture Tourism」はこの1冊に上越の魅力と暮らしの息遣いを丁寧に織り込み、上越地域の観光データベースとしても活用できる上質な「ストック情報」と位置付けられると考えます。上越の豊かな旅に誘ってくれる1冊です。

受賞団体コメント

「NIIGATA Culture Tourism (ニイガタ カルチャー ツーリズム)」は、新潟の文化を知り、訪れていただくためのガイドブックです。

今回、楓千里賞をいただいた上越エリアでは、長い歴史の中で様々な文化が育まれ、受け継がれてきました。今回、制作に当たり一番大切にしたのは、「地域の人の熱量を表現すること」です。取材先の皆さんは、上越のまちや生活文化、郷土料理、自然景観に強い誇りを持っておられたので、我々も真正面から取材させていただき、皆さんの熱量をそのままガイドブックに掲載させていただきました。

このガイドブックは、全国の方から新潟を訪れてもらうきっかけづくりが主な目的でしたが、完成後、取材先の皆さんから「これを機に一層志を高くして、郷土のPRや文化の継承に努めてまいります！」とお言葉をいただいたことが、心に残っています。

新潟県では、県内を5エリアに分け、ガイドブックや動画を順次公開していますが、今年度は、ふるさと動画大賞においても、魚沼エリアの動画が谷中修吾賞をいただき、動画とガイドブックのW授賞を大変光栄に思っております。

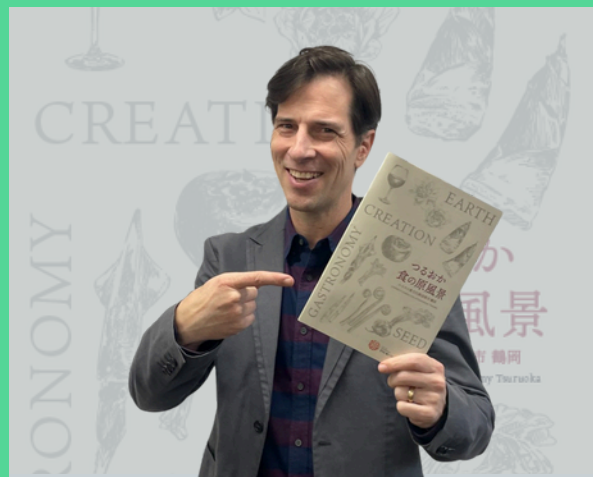
ガイドブックや動画をご覧いただき、ぜひ、新潟県の文化を体感し、心豊かにする旅へお越しください。



パ ッ ク ン 賞

山 形 県 鶴 岡 市

つ る お か 食 の 原 風 景



審査委員コメント

こういった賞はどうしても「変わり種」が目立つ分、最終審査まで残り、そのオリジナリティーやアイデアが評価され受賞にまで至ることが多い。今回のパッケン賞はあえて、「ストレートパンフ」にさせていただいた。だが、ノーマルな分だけ、分母の大きい、競争率の高いジャンルだと思ってほしい。その中で勝ち抜くには見やすさや情報力だけでは勝ち抜けない。鶴岡市のパンフレットは、写真やレイアウト、文章も優れていて、爽やかさ、親しみやすさ、温もりまで伝えてくる絶品です！おめでとうございます！

受賞団体コメント

2024年は、鶴岡市が国内で初めて「ユネスコ食文化創造都市」に認定されて10周年にあたります。この節目の年にこのような栄誉ある賞を頂戴し、関係者一同、大変嬉しく思っております。誠にありがとうございます。

「つるおか食の原風景」は、本市ならではの食文化の歴史や素晴らしさ、当たり前ではない恵まれた環境を再認識できる一冊になればという願いを込めて制作しました。

本市には、山岳修験の聖地「出羽三山」に伝承される「精進料理」や祭りと精神性を分かち合う「行事食・伝統食」など、風土に息づく精神文化と結びついた食文化が色濃く残っています。また、各家庭に受け継がれる「郷土食」や、農家の人々が世代を超えて「種」を守り継いできた生きた文化財「在来作物」など、先人たちの知恵と情熱によって培われた独自の食文化が今に伝わっています。

これらの特徴的な食文化について、写真や図などをメインに分かりやすく表現し、本市の食文化のストーリーと魅力を知っていただけるような構成としました。

ご覧になりたい方にはお送りさせていただきますので、鶴岡食文化創造都市推進協議会のHP（www.creative-tsuruoka.jp）に記載の連絡先やInstagram（@creative_tsuruoka）等でお問い合わせください。

マ ッ ク ン 賞

長野県 飯 田 市

飯 田 焼 肉 の 取 説



審査委員コメント

「取説」と言うタイトルに目が行きました。導入部分の飯田の焼肉の歴史と特徴も分かり易く書かれていて読みやすかったです。そして、市内にある焼肉店の、お店の写真よりも大きく鉄板、網の写真がズラ〜っと並んでいるのも面白いしインパクトがあります。「焼肉の鉄板、網にも色々な形状があるんだな〜まさに店の顔なんだな〜」と思いました。また各ページの下のコラムも、ミニ知識、雑学的な感じで楽しく読めました。全部読んで「飯田焼肉の取説」というタイトルに納得。パンフレットを持って鉄板、網の答え合わせをしに行きたいです。

受賞団体コメント

この度は大変光栄な賞をいただきありがとうございます。

「飯田焼肉の取説」は、当市自慢の飯田焼肉を、多くの方々に知っていただきたいという思いで作りました。飯田市を含む長野県南信州の焼肉は、戦前より地域で育み熟成されてきた食文化です。个性的で魅力的な焼肉店の数々を、長年の歴史が染み込んだ焼台をメインに紹介しつつ、歴史的な背景を過去の文献やインタビューから掘り下げた構成としています。市民にとっては、地域の歴史文化を確認するバイブルとして、市外から訪れた方には、今晚の行き先を決めるガイド役として、鞆に忍ばせていただければ嬉しいです。

また当市は、リニア中央新幹線の長野駅ができる「リニア駅ができるまち」です。東京から車で3時間超かかる地方都市が、リニアが開通すれば、東京から45分の「身近なまち」に変わります。開通まではまだまだお時間をいただきそうですが、「焼肉の桃源郷」とも称される昔ながらの空気感を味わっていただけるよう、鉄板をアツアツにしてお待ち申し上げております。

ぜひ、本パンフレットをきっかけに、飯田市のことを知り、訪れ、飯田焼肉の深い魅力を知っていただければ幸いです。



地域活性化 センター賞

茨城県行方市

SHIRAUO BOOK



審査委員コメント

「えっ、しらうおって成魚だったの」という驚きから始まるしらうお尽くしの小品。名物とはいえ、しらうおだけじゃなく、もうちょっと行方市の観光PRをしてもいいんじゃないのと余計なおせっかいまで招来する。あっさりとした冊子の中にも、行方のもつ素朴な魅力が楽しめます。



受賞団体コメント

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

茨城県行方市の特産品であるシラウオ。繊細な魚であるため、漁の仕方も一工夫、二工夫されていますが、漁業者の減少や高齢化による担い手不足、買取価格の抑制による魚価低迷の常態化などの課題があります。また、漁業経営をめぐる厳しい状況が続いていることから、安定した収益を生み、持続可能で「強い水産業」を構築することが必要となり、それを解消するべく、「霞ヶ浦シラウオ×AIプロジェクト」を立ち上げました。

その一つのツールとして制作した「SHIRAUO BOOK」は、霞ヶ浦シラウオを知ることから始まり、伝統ある技術と現代の最新技術（AIによる鮮度判定）を取り入れた漁の仕組み、そして、食すまでをかすみさんと一緒に学ぶ冊子となっています。マンガ仕立てで手軽に読める冊子なので、観光客の方にはもちろん、是非、市民のみなさんにも手に取っていただき、改めて霞ヶ浦シラウオのことを知っていただきたいと思います。

SHIRSUO BOOKにも登場した、キャラクターの「かすみさん」は、今後もSNSなど展開を広げ、茨城県行方市の様々な魅力を知ってもらえるよう取り組んでいきたいです。

「霞ヶ浦AIシラウオ」特設サイト





地域プロモーションアワード2024

第6回 ふるさと動画大賞

審査結果



開催趣旨

地域活性化センターでは、ふるさとの魅力を発信する動画コンテンツによる地域情報発信を支援するために「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさと動画大賞」を開催し、全国各地の創意工夫に満ちた動画コンテンツを募集、表彰している。

応募作品数

受賞

8 作品

応募

104 作品

審査委員

審査委員長

クリエイティブディレクター
東京藝術大学美術学部デザイン科 教授

箭内 道彦氏



審査委員

女優

秋吉 久美子氏



審査委員

和歌山大学
観光学部 教授

木川 剛志氏



審査委員

(株)マガジンハウス
クロスメディア事業局 執行役員

戸高 良彦氏



審査委員

BBT大学大学院MBA教授
(一社)INSPIRE 代表理事

谷中 修吾氏



審査委員

(一財)地域活性化センター
常務理事

川住 昌光



受賞作品



大賞



鹿児島県喜界町 優しさも、おすそ分け

優秀賞



埼玉県熊谷市 埼玉県熊谷市グルメCMシリーズ

箭内道彦賞



埼玉県越生町

越生七福神めぐり
～小さな町のクセすご神セブン～

秋吉久美子賞



滋賀県東近江市

源 ROOTS OF JAPAN 永源寺エリア
日本の原風景を訪ねて

木川剛志賞



栃木県茂木町

いつかの日常が蘇る場所
茂木町

戸高良彦賞



神奈川県厚木市

おいしいね 厚木の給食

谷中修吾賞



新潟県

NIIGATA Culture Tourism
ニイガタ カルチャー ツーリズム
Episode2 - 魚沼エリア -

地域活性化センター賞



福井県

青々吉日プロモーション動画

総 評



審査委員 秋吉久美子氏

本年の「地域プロモーション」動画は例年よりも、様々な視点や手法によるアプローチに依る作品が多く見受けられた。昨今の多様性を象徴しているようでもあった。各作品とも、それぞれに風景・文化・人・モノ等の特色を活かす工夫を凝らした「地元を愛する」という日本人の心の根源が映し出されていたように思う。

審査委員 木川剛志氏

世界的にオンラインメディアの映像の尺は短くなり、視聴者が心情的に共感できる映像、いわゆるエンゲージメントの高い映像が少なくなっている中、今回の応募作品はそれぞれの土地のファンの獲得につながるエンゲージメントの高い映像が多かったように思います。このように尺を確保し、個性を発揮している、そして地域の人々の顔がしっかりと見えることで、場所のイメージにつながっている、そう感じました。素晴らしい映像ありがとうございました。



審査委員 戸高良彦氏

今回もさまざまなタッチの作品がラインナップされました。情緒あふれる大作から、ディレクターの演出が効いた佳作、ドキュメンタリーで迫る作品など、自治体の方々の創意工夫をひしひし感じました。どうすれば伝えたいことが伝わるのでしょうか？ 雑誌的に言えば、特集テーマを具体性のある1つ（タイトル）に絞る、具体的なキーワード（各論）を散りばめる。あとは平易な言葉で語る、でしょうか。

総 評

審査委員 谷中修吾氏

地域プロモーション動画のブームが一周しつつある今、改めて、地域として動画で何を成し遂げたいのかという本質的な問いに向き合う重要性が増していると思います。それは、すなわち、地域の価値を見つめ直すことに直結します。今年度の応募作品で高評価を得た動画は、本質的な思考プロセスを経て制作されているように見受けられました。本物志向の時代です。



審査委員 川住昌光

今年も、多くの素晴らしい作品のご応募をいただき本当にありがとうございました。

地域色を活かした素朴で味わいのある作品からユニークな物語の作品まで力作の数々でした。

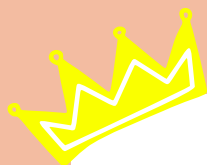
大賞の喜界町の作品は、島ならではの自然に囲まれた、ゆったりとした暮らしをショートストーリーで伝えるというシンプルな手法ですが、人情味溢れる島民が出演し、「笑顔」で島の豊かな暮らしぶりをごく自然に伝えてくれます。



※ 受賞作品の詳細は右のQRコードをご覧ください。



大賞



鹿児島県喜界町

優しさも、おすそ分け

動画はこちらから→



審査委員長コメント

ふるさと動画に一番必要で大切なものは、やっぱり「愛」なのだと思います。喜界島の動画は、素晴らしい大自然をこれでもかというほどに次々と繋ぎながら、そこに息づく人と人との営みを、独特の空気感でコミカルに描いた大作。

景色だけの動画も人をメインにした動画も数多存在するけれど、その両方を見事に融合した企画と構成、そしてそれを着地させた映像技術には特筆すべきものがありました。島民のみなさんの演技というかそのままの姿がとても素敵ですね。エンドロールの笑顔にグッと来ます。動画を制作するという行為が人を繋ぎ町をひとつにする。ふるさとを、住民を輝かせる。理想の形がここにあります。

受賞団体コメント (鹿児島県喜界町 企画観光課)

この作品は、喜界島に移住して3年目の主人公が「おすそ分け」のお礼を言うために、島を自転車で駆け回り物語が広がります。都市部の生活者が憧れを抱くストーリーで、「おすそ分け」という現代の都市部では無くなってしまった文化、喜界島では当たり前のように行われている習慣を物語の根幹に置き、人の優しさや自然の美しさを表現しています。

“ストーリーはフィクションですが、優しさはノンフィクション”

従来の観光スポットや食・アクティビティなどに焦点を当てた観光動画ではなく、人の優しさや何気なくある自然環境、島独自の文化を、島民目線のストーリーで展開することで、都市部に住む生活者をターゲットに憧れを持ってもらい、喜界島に「行ってみたい」「住んでみたい」と観光や移住を想起してもらうことを工夫しています。

さらに、作られたストーリーを作りものに感じさせないために、主人公以外は喜界島在住の島民にオファーし、出演していただきました。映像の注目ポイントは、おばあちゃんがバナナをおすそ分けする「はい、バナナ」のシーンです。とても可愛くてほっこりするシーンなのでぜひご覧いただきたいです。

優秀賞

埼玉県熊谷市

埼玉県熊谷市グルメCMシリーズ

動画はこちらから→



審査委員長コメント（抜粋）

熊谷市のグルメCMシリーズがこんなに美味そうなのは、シズル撮影の巧みさだけでなく、人間と、土地が、そこにちゃんと映っているからです。

審査委員コメント（抜粋）

熊谷市の作品は、ダイナミックな映像と音で、ご当地グルメの魅力を最大限引き出している力作です。特に躍動感のある「うどん編」は必見です。

受賞団体コメント

（埼玉県熊谷市 産業振興部商業観光課）

この度は、たいへん榮譽ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

今回の映像制作は、クリエイティブチームに市内のグルメを紹介した際、「皆さん本当に美味しそうに、大きな口で頬張る系のグルメばかりですね！」と言われたことから始まりました。

熊谷市といえば「暑さ」で注目されることが多いですが、観光地として取り上げられることはあまり多くありません。一方で、自然と産業、暮らしが調和するこの街には、地元の人々に愛される日常的な魅力があふれています。特に市内のグルメは、見栄えや豪華さよりも、茶色がかった色合いと素朴さにあふれ、長年地元で親しまれる「日常食」が中心です。

本プロジェクトでは、そうした熊谷の日常を記録し、再発見することをテーマにしました。特別な演出は控え、地元民の自然な姿を映し出すため、シネマカメラやバイノーラルマイクで現場に寄り添う撮影を行いました。BGMに使用されているのは収録した環境音。各グルメに添えたコピーには「この風景がいつまでも続いてほしい」という願いを込めています。

この映像を通じて、熊谷市の魅力に触れ、多くの方に「ガチの地元グルメ」を体験していただけたら幸いです。

箭内道彦賞

埼玉県越生町

越生七福神めぐり
～小さな町のクセすご神セブン～

動画はこちらから→



審査委員コメント

お金を渡して納品を待つだけの外注は簡単です。だけどそれだけでは伝わらないものが絶対にある。生まれない奇跡がある。ふるさと動画の理想形の一つは「自立」「自作」だと私は思います。

若手職員のアイデアに、ガチンコの熱演で答える町長、副町長、教育長。布袋尊を演じるために頭を剃って撮影に臨んだ課長補佐。七福神を巡る女性職員。エキストラとして参加した多くの町民たち。町出身のクリエイターによる緻密な演出。ふるさと愛に溢れたこの動画の中で、人が、町が、眩しく輝いています。

受賞団体コメント (埼玉県越生町 企画財政課)

越生町では、毎年1月4日に「武蔵越生七福神めぐり」を開催しており、令和6年に40周年を迎えることから動画を制作しました。この作品は、町おこしに頭を悩ませる町職員が、町内の七福神を巡りながら願掛けを行い、不思議な体験をするもので、ドラマ仕立ての、笑いあり、涙ありのハートフルコメディです。

制作は、越生町の若手職員と越生町出身の動画クリエイターが協力し、企画から脚本、撮影、編集に至るまで、全ての工程を手掛けました。撮影は5日間というハードスケジュールで実施され、エキストラには84名もの町民が参加し、地域の絆を深める貴重な機会となりました。

出演者の町長や町職員は演技経験がない中で真剣に挑み、何度もリテイクを重ねました。また、衣装や小道具にもこだわり、七福神のリアリティを追求。既製品ではない髭や三叉槍などの小道具は、職員自らが手作りしました。

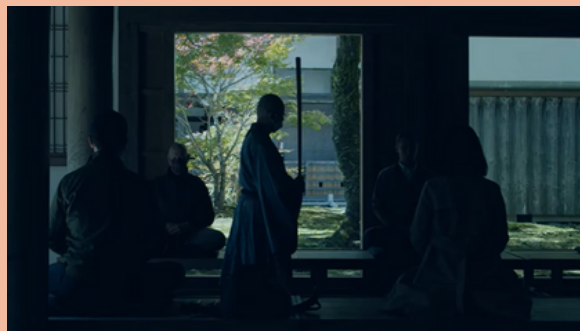
15分間の短編映画のようなこの動画は、長さを感じさせず何度でも楽しめる内容で、町特産品「梅」をアピールするストーリー性も大切にしています。この作品は町全体が一体となって作り上げた成果であり、多くの方に観ていただきたいと願っています。

秋吉久美子賞

滋賀県東近江市

源 ROOTS OF JAPAN 永源寺エリア
日本の原風景を訪ねて

動画はこちらから→



審査委員コメント

美しい映像に心を奪われた。
静けき時間の光と影を禅の世界に融合させていく見事な編集の運びだ。
たゆたう自然の煌めきが、禅と向き合う人の心に取り込まれる。
寺院の落ち着き。木の温もり。水が織りなす幽玄が調和する。
穏やかさと美が、日本の原風景であることを思い起こし、願わせる。

受賞団体コメント (滋賀県東近江市 商工観光部観光物産課)

この度は、「秋吉久美子賞」という栄えある賞をいただき、心から感謝申し上げます。関係者一同たいへん喜んでおります。

東近江市は、滋賀県の南東部に位置し、東は鈴鹿の山々から西はびわ湖まで森里川湖（もり・さと・かわ・うみ）がつながる多様性のある自然を有しており、古来から農業や林業、琵琶湖の漁業などで栄えてきました。

本動画の「永源寺エリア」は市内東部、三重県との県境に位置し、鈴鹿山脈から湧き出る清流が豊かな文化を醸成してきました。動画内で紹介されている「政所茶」もその一つです。この「水」を基調として発展してきた文化は、日本遺産「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」の構成文化財「永源寺と奥永源寺の山村景観」として選定されています。

今回の動画は、インバウンド向けに永源寺の魅力や日本文化を体験してもらい、実際に足を運んでもらうため、大本山永源寺により制作されました。季節で移り変わる彩り豊かな自然の中で、日本の原風景の魅力を「引き算の美学」を用いて表現されるこの動画は、観た方々の心を掴んで離さないものと思っています。ぜひ一度映像をご覧ください、東近江市、永源寺を訪れていただければ幸いです。

木川剛志賞

栃木県茂木町

いつかの日常が蘇る場所 茂木町

動画はこちらから→



審査委員コメント

昭和レトロ、平成レトロ、そんなレトロブームが若者の間には広がっているようです。それはレトロな物品への憧れなのでしょうか？それとも？

茂木町の「いつかの日常が蘇る場所」には、人々が肩を寄せ合いながら日々が過ぎし、共感とともに生きていた“いつかの日常”が見えました。レトロとは、普遍的な人間の温かい暮らしへの憧憬、もしかすると、自分の中にある“レトロ”を探すことなのかも。こんな世界を表現してくれた町に行きたい。そう願わせてくれた映像でした。

受賞団体コメント (栃木県茂木町 企画課)

この度は「木川剛志賞」を賜り、誠にありがとうございます。受賞を励みに、より多くの方が訪れるきっかけになるよう、これからも栃木県茂木町の素晴らしさを伝える取り組みを続けてまいります。

本町では、新型コロナウイルス感染症の影響による観光人口の減少対策として、より若い世代の誘客を目的に、SNS、Youtube等のデジタルコンテンツを活用した情報発信に取り組んできました。その一環として、新たな観光テーマとして掲げる「昭和レトロな街並みづくり」にフォーカスし、SNSでインフルエンサーとして活躍するくつざわさんの力を借り、町民が当たり前にとらえていた「昔ながらの街並み」を観光資源としてPRする動画を制作しました。

まるでタイムスリップしたかのような非日常感にあふれた映像は、ノスタルジーに浸ることができます。昭和を過ごしてきた世代はもちろんのこと、昭和を知らないけれどもレトロに関心がある若い世代にも、「便利じゃないけど、心地良く暖かい」昭和情緒あふれる空気感を伝えることができたと思います。映像だけでは伝えきれない現地ならではのリアリティーを味わうためにも、ぜひ、茂木町に遊びにきてください。

戸高良彦賞

神奈川県厚木市

おいしいね 厚木の給食

動画はこちらから→



審査委員コメント

「おいしいね 厚木の給食」には真実しかありません。登場人物、世界観ともに演出を感じさせない、素直なシティプロモーションだと感じました。子供たちと、地場農産物の生産者や栄養士や調理員との人間関係が、よくわかる。子供たちに語らせないところがポイントで、冒頭の「いただきます！」と「笑顔」だけで「感謝とありがとう」を表現する引き算の演出が、光っていると思います。結果「子育てするなら厚木！」が伝わります。

受賞団体コメント

(神奈川県厚木市 広報シティプロモーション課)

2024年4月にスタートした小・中学校給食費の無償化に合わせ、市の子育て環境をPRする一環として制作しました。制作に当たっては、無償化という言葉のみを前面に出さず、厚木の給食自体の魅力が伝わるよう心がけました。市の取り組みを押し付けず、魅力が伝わる構成を考えた結果、作りたての給食をおいしそうに食べる子どもたちの姿に、給食を裏で支える栄養士さん、調理員さん、野菜の生産者さんの思いを重ねるアイデアが生まれました。撮影は、動画全体が明るく自然な雰囲気になるよう制作会社とイメージを共有し、現場を下見しました。せりふは作らずに会話形式で質問を投げかけ、皆さんが率直に給食や子どもたちへの思いを語る姿を撮影しました。動画を見ていただいた皆さんに「こんなに思いの込もった給食を食べられる、厚木っていいな」と思ってもらえたらうれしいです。

厚木市では、23年度から本格的にプロモーション動画の制作を始めました。動画制作のノウハウがなく手探りで取り組んでいる状況の中で、今回の受賞はとても励みになります。この度は、「戸高良彦賞」に選んでいただきありがとうございます。ありがとうございました。

谷中修吾賞

新潟県

NIIGATA Culture Tourism
ニイガタ カルチャー ツーリズム
Episode2 - 魚沼エリア -

動画はこちらから→



審査委員コメント

圧倒的な映像美が心地よいテンポで人を魅了し、透明感のある奥行きに品格を備えた楽曲が上質な旅空間を彩ります。何度も繰り返し見たいくなる没入感が印象的な作品です。吟味されたカットが物語として紡がれることで、自身が新潟に身を置いて旅している感覚へと導かれます。直感的に人に対して訴えかける普遍性は、本作品において高く評価されるべき特徴と言えるでしょう。

受賞団体コメント (新潟県 観光文化スポーツ部文化課)

【豊かさを体感する旅へ。】

新潟県では、伝統芸能・食・文化財などその地域に根付く文化を体感する観光（文化観光）を「NIIGATA Culture Tourism（ニイガタ カルチャー ツーリズム）」と名付け、文化観光を通じて“豊かさを体感する”、新たな旅の提案をしています。

魚沼エリアは新潟県のなかでも山間部に位置し、雄大な山々を背景に信濃川や魚野川が流れる豪雪地帯です。雪国で育まれた、生きるための知恵と文化、そしてツーリストが文化を体験することで得られる「心豊かになる、その瞬間」の表情やときめき、心が解きほぐされ、あたたかいもので満たされていく旅を表現しました。冷たく厳しい「雪」との対比に是非ご注目ください。

また、今回「谷中修吾賞」をいただいた魚沼エリアを含む、県内5エリアの文化観光に関する動画やガイドブックを順次公開しています。昨年優秀賞をいただいた「Episode1 - 新潟・佐渡エリア -」に続く今回の受賞をきっかけに、さらに多くの方に動画をご覧いただき、実際に文化の魅力を体感するため、ぜひ新潟県へお越しいただきたいと願っています。

地域活性化センター賞

福井県

青々吉日プロモーション動画

動画はこちらから→



審査委員コメント

若い女性2人の何気ないがしかしわざとらしい会話から始まるところで一時停止しそうになるが、そこから始まるエメラルドグリーンの海岸の美しさにまず目を奪われ、7万年分の歴史を語る自然のもつ迫力に圧倒され、「吉日」を呼び込む文化に心洗われる、そんな地域の魅力を存分に伝えてくれる逸品です。オーベルジュで女性が何を食べているのかがどうしても気になってしまう、そこも魅力の一つです。

受賞団体コメント

(福井県 嶺南振興局二州企画振興室)

2024年3月、東京駅と福井県の敦賀駅が北陸新幹線で結ばれました。福井県では、県の南部に位置する敦賀・若狭地域の市町、団体等が一体となって「青々吉日 TSURUGA WAKASA (あおおきちじつつるがわかさ)」のコンセプトのもと、観光プロモーションを展開しています。

「青々吉日」とは、若狭湾や三方五湖などの豊かな自然を「あお」、太古からの歴史や伝統文化を「きちじつ」として表現したものです。

本映像では、SNS（Instagram）の写真から始まる「青々吉日」な旅のロケーションを、二人の女性の会話に乗せて、ストーリー仕立てで紹介しています。映像の制作に当たっては、敦賀・若狭の魅力を熟知している市町観光協会と協力してスポットを選定し、地元在住タレントが出演し、地元の若者クリエイターが映像の撮影、編集を行いました。

「Made in 敦賀・若狭」の本映像を皆様にお届けすることができ、このたび、栄えある「地域活性化センター賞」をいただきましたことを大変嬉しく思っております。

ご覧になった皆様が、敦賀・若狭に興味を持っていただき、さらには訪れてくださいますように。